

プロジェクト名 | 気候変動適応型屋根システムを用いた住宅

レジリエンス措置の内容

- <想定するリスク（課題）およびその背景・必要性>
- 台風の大型化・強靱化、竜巻、雹（ヒョウ）害に対して
猛烈な暴風雨や局所的な竜巻、巨大な雹（ヒョウ）が降り注ぐ被害が全国的に発生している。屋根材が飛ばされた際は漏水のリスクや発災後も長期間ブルーシートでしのぐ生活を余儀なくされる。従来の性能を大きく超える耐風圧性、耐衝撃性を有する屋根システムが必要である。
- <提案・解決策>
- ① 平常時：瓦の4分の1の軽量性と紫外線劣化や退色がなく塗り替え不要を実現した屋根材により、耐震性とメンテナンス性を大幅に向上
発災時：国内最高峰の耐風圧性能（9,000パスカル）、米国最高基準（UL2218試験Class 4）の耐衝撃性により、台風による暴風時や竜巻でも剥がれず、飛来物の直撃や巨大な雹でも絶対に割れない強靱さで建物を保護
発災直後：上記対策に加え、高断熱高気密、蓄電池と一定量の備蓄で在宅避難による居住継続を確保

② 特殊合成樹脂屋根材「REVIA ROOF」を採用し、断熱性能等級 6 以上に加え、気密性能C値1.0cm²/m²以下とする

③ 一棟あたり屋根は全て「REVIA ROOF」とし、当社とメーカーにて取決めたマニュアルに準じて施工する

提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
● ハリケーン多発国米国で実証された暴風性、衝撃性に優れた最先端の屋根システム ● 自己修復機能や釘穴を密閉する止水構造等、これまでの国内にはない未普及の新技术を導入	● 検証用の模擬屋根を作成し、屋根施工業者を対象とした実践的な施工研修を実施 ● 令和8年6月現在、300棟近い施工物件があり、品質管理体制は確立している	● 建築職人が不足する中、カッターでの切断加工等、施工が容易で特殊技能を有しない ● 既存ストックに対するカバー工法や葺き替えのリフォームにおいても真価を発揮

効果検証の方法	
通常の方法	災害が発生した場合に、特別に実施する方法
● 定期検診システムによる定期点検とメンテナンスサポートシステム	● 特に被害が大きかったエリアを中心に自社物件を抽出し、他の屋根仕様の物件、屋根以外の被害状況も含め、個別にお客様への被害状況を確認、対応する